

※詳細は裏面をご覧ください

5/19カンパニーデラシネラ『どこまでも世界』2021 試演会レポート!

レポート：レイチェル／豊岡市在住

まばたきしている暇がないくらいのスピード感！なのに、とてもなめらかな動き…
カンパニーデラシネラ『どこまでも世界』を観た最初の感想。

全編を通してスルスルと彼らの世界に引き込まれていく。

この不思議な感覚はなんだろう。効果音以外に台詞はないのに、彼らの言葉が、
そしてさんざめきが聞こえた。

風や雨をも感じた。

レストランでの食事場面では、見事なまでにテーブル上のお皿がすり替えられ、ソファーでの入れ替わりでは4名全員の呼吸がピッタリとあい、一糸乱れぬパフォーマンス。

頭のてっぺんから足の指先までが美しくパントマイムしていた。また観たい！



©igaki photo studio



1

① 7/4(日) 14:00~16:30

会場／豊岡市民プラザ

② 7/5(月) 18:30~21:00

会場／城崎国際アートセンター

料金／参加無料(要申込) 定員／各回10名程度 ◎演劇経験不問

(※先着順！)

いちはらさとこ
ノイマルクト劇場 & 市原佐都子/劇団Q
『MADAMA BUTTERFLY(蝶々夫人)』リーディング会

2

① 8/1(日) 14:00~[A]

会場／城崎国際アートセンター

② 8/2(月) 18:30~[B]

料金／観覧無料(要申込)

※詳細は裏面へ

たにけんいち

谷賢一／DULL-COLORED POP

『丘の上、ねむのき産婦人科』試演会



託児を希望される方は、電話でKIACまでお申し込みください。

保育士さんの手配の都合上、申込はイベント開催日の1週間前までです。

託児サービス (開催日が土日の場合は金曜日締切)

掲載イベントに関する
申込・問合せ

城崎国際アートセンター [電話受付 9~17時 / 火休]

TEL.0796-32-3888 FAX.0796-32-3898

①イベント名 ②参加日程 ③氏名 ④電話番号をお伝えください

本通信に掲載の情報は、2021年6月15日時点の情報です。

今後の状況によっては予定を変更する場合があります。

最新情報は <http://kiac.jp> で確認してください。



アートセンター通信

7月号

2021.6.25 発行

城崎国際アートセンター (KIAC／きあつこ) は、演劇やダンスなどのアーティストが滞在しながら作品をつくるところです。滞在アーティストは、市民のみなさんが無料で観たり参加したりできる「地域交流プログラム」をおこないます。



イベントにおける
感染症対策について

7月のイベントかみくだき

1

ノイマルクト劇場&市原佐都子/劇団Q 『MADAMA BUTTERFLY(蝶々夫人)』リーディング会

①7月4日(日)14:00~16:30 ②7月5日(月)18:30~21:00

どんな人?



© 佐藤瑞季

市原佐都子
劇団Q

いちはらさとこ
城崎国際アートセンターの芸術監督をつとめる市原佐都子さんは、劇作家・演出家・小説家と多彩に活動中。

演劇の印象が強い市原さんですが、意外にも舞台との出会いはこどもの頃に習っていたバレエで、好きだった漫画はセーラームーンだそう!

女性の視点から、性についてや、人間の生理感覚への違和感を、独自の言語センスと身体感覚でとらえる作品は、衝撃を持ってむかえられています。

何をするの?

今回は、プッチーニのオペラ『MADAMA BUTTERFLY(蝶々夫人)』を原案にした新作の稽古をします。「蝶々夫人」といえば、舞台は日本、長崎。

100年ほど前に書かれた物語ですが、「蝶々夫人」に描かれる、白人男性をなんとなくカッコいいとする考え方や、日本人女性なら黒髪…などの偏見は、今は全くないと言えるでしょうか。例えばそんなふうに、西洋／男性からみた日本／女性という先入観を問い合わせ直す新作です!

滞在中、完成した台本を、みんなで声に出て読んでみる会を行います。

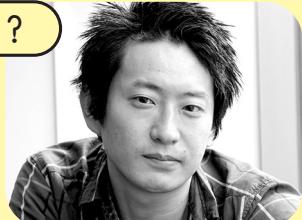
2

たにけんいち 谷賢一／DULL-COLORED POP 『丘の上、ねむのき産婦人科』試演会

①8月1日(日)14:00~ [A] 女性キャストが女性役、男性キャストが男性役を演じます。

②8月2日(月)18:30~ [B] 男性キャストが女性役、女性キャストが男性役を演じます。

どんな人?



谷
賢
一

作家・演出家・翻訳家。福島県生まれの、千葉県育ち。谷さんといえば、福島県と原発の歴史を描いた『福島三部作』で演劇界の芥川賞といわれる「岸田國士戯曲賞」を受賞されている注目の作家さん。

ポップでロックな創作スタイルで、古典悲劇からミュージカルまで幅広い作品を手掛けておられます。

何をするの?



『福島三部作』第一部『1961年：夜に昇る太陽』
©bozzo

駅の北側、商店街を抜けた先、丘の上にある「ねむのきさん」は、昭和のはじめ、古くから続く産婦人科で、私も私の母も祖母もここで産み、生まれたらしい…

物語の舞台は、架空の地方都市。妊娠や出産には、さまざまな問題が隣あわせにあります。少子化・晩婚化・ジェンダーギャップ・若者の貧困・不妊治療・中絶・ひとり親など…数十人への取材をもとに描かれる新作。今回斬新な試みとして、「自分と異なる性／生を想像する」ため、8月2日の試演会は、男女の役を入れ替えて上演します!

#劇作家・演出家・小説家

#舞台との出会い #セーラームーン

#岸田國士戯曲賞 #ポップでロック

#古典悲劇からミュージカルまで

裏面紹介文:ハシモト



8月中旬予定 ○劇団あはひ『Letters (仮)』成果発表 8月中旬予定
8月末予定 ○目黒大路／ゑびす大黒座『地獄極楽 妖怪ショー !!』オープンスタジオ